

令和元年秋期富岡第一地区推進連絡会

1 日時

令和元年10月26日(土) 14:00~16:10

2 場所

富岡ふれあいハウス

3 参加者

(地域側) 自治会等地域団体関係 36名
学校関係(小田小、小田中) 4名

(支援チーム、その他行政側)

区役所 12名

区社会福祉協議会、地域ケアプラザ 11名

4 お元気だれでも食堂について

資料により、事業の実施状況を説明

5 セブンイレブンの移動販売車について

資料により、事業の趣旨・経緯、及び進捗状況等を説明

6 区長による説明

資料「住み慣れた地域で いつまでも 元気で暮らし続けるために」

7 意見交換(グループ討議)

テーマ「台風15号の被害について」(台風19号を含む)

《4グループ(A, B, C, D)に分かれて討議》

(1) 事前の情報からどんな準備をしたか

ア 家の防災対策

- ・ 窓の目張り、側溝の清掃、ブルーシートや食べ物、植木鉢を屋内へ、土のうや水のうの作成。
- ・ スーパー等に行ったが、カセットコンロ、養生テープ、カップ麺等が売切れていた。

イ 避難等

- ・ 前日に避難所を案内した。
- ・ 町内会で避難所の案内チラシを配布した。
- ・ 親族宅に避難した、もしくは親族が自分の家に避難してきた。
- ・ 台風19号では自宅の位置は危険と思ったので、町内会館に避難した。
- ・ 台風19号では「団地は安全だから外に出ないように」と注意があったので家にいた。
- ・ 情報がないため、避難するか否かの判断が難しい。

ウ 台風19号のときは、台風15号の被害や反省を踏まえ準備した

エ 一人暮らし高齢者宅すべてに民生委員・児童委員が訪問し安否確認を行った。

(2) 台風で、どのような被害があったか

ア 風による被害

- ・ 車の窓が破損、屋根・瓦・カラーコーンが飛んだ、倒木、垣根・フェンスが倒れる、雨漏り、2階の空調機の室外機が落ちかかった家があった(撤去)、飛来物が電線にひっかかる、マンションの大規模修繕の足場が飛んだ。
- ・ 捲れた屋根瓦が通学路へ落ちる可能性があり、通学中の学生に注意喚起が必要になった。

イ 雨(浸水含)による被害

- ・ 自治会館の雨漏り、セブンイレブン付近が浸水、雨漏りで家の中が水浸し、側溝に落ち葉が溜まった。高架下に水が溜まった。
- ・ 小学校体育館の水漏れ。
- ・ 中学校では飛んできた落ち葉で3階ベランダの排水溝が詰まり冠水した。
- ・ マンションのエントランス前に水が大量に溜まっていた。

ウ 社会生活への影響

- ・ 食料の買いだめで近所のコンビニからものがなくなった。
- ・ 停電が続いた。(富岡第一地区ではない)
- ・ 計画運休の影響で職場に出勤できなかった。(行くのが遅れた)
- ・ 小学校、中学校では教師の多くが出勤できなかった。
- ・ 一人きりで心細かったと話す単身高齢者の話が多く聞かれた。
- ・ 富岡公園のトイレが使えなくなり修理した。
- ・ ごみ収集がなかったため、日常のごみと台風によるごみで、いつもより溢れていた。

(3) 誰かの助けが必要だったか、または必要な人は近くにいたか

ア 民生委員・児童委員

- ・ お元気ですかコールに「屋根が飛んで困っている」との相談が入った。
- ・ 民生委員・児童委員で戸別訪問した。民生委員・児童委員が訪問した様子では、特別な支援が必要な人は見受けられなかった。見回りを行い必要な情報を伝えたり、適切な相談先につなげることはできた。単身高齢者は情報が入ってこないため、不安が強い人が多いように思った。

イ 近所の助け合い

- ・ 道路を塞いでいた倒木を撤去した。
- ・ 被害にあった人への声かけ。
- ・ 避難に助けが必要な人が地域にいるかどうかなど、詳しい個人情報は分からない。
- ・ 要支援の人は民生委員・児童委員が把握しているが、オープンにしていないため町内会長でもわからない。

ウ 台風通過後、老人会で回った

(4) 災害時の見守りには、どのような取組が必要か

ア ご近所での助け合い

- ・ 災害時要援護者名簿はあるが、実際に動けるようになっていない。
- ・ 名簿や役割を決めていても発災時にはその通りには動けない、目の前の人を助けるので精一杯。
- ・ 発災時には、自分の周囲にいる人を助けたり、助け合うことが大切。
⇒日頃からご近所とのコミュニケーションをとることが大切。
- ・ 台風の場合は自宅避難が原則ではないか、風雨が収まってから、隣近所で助け合うのが良い。

イ 自治会町内会等

- ・ 避難場所として町内会館の開放。(今回行った)
- ・ 自治会町内会単位で周囲への声かけ、情報提供、安否確認を行えると良い。
- ・ 民生委員・児童委員による単身高齢者宅への訪問。(既に行っている)

ウ その他

- ・ 無理に避難せず動かないことを伝えておくことも大事。(階段や、開かないドアなど転倒要因が多くあるため)
- ・ 困っていることを吸い上げてもらえる仕組みが欲しい。
- ・ 情報を周知する取組、情報の伝達方法・手段が課題。

(5) その他の意見

ア 避難所の周知等

- ・ 防災メールには避難場所が載っていたが、高齢者等は防災メールの設定ができない、分からない人が多いと思われる。
- ・ (今回の台風における一番最寄りの避難場所が西柴中学校とのことだが) 暴風雨の中、近所の小田小学校に行くことすら大変だったのだから、西柴中学校に避難することは現実的ではない。
- ・ 台風19号で、ふれあいハウスが避難場所だと思っていたが、行ったら閉まっていた。
- ・ 避難所がどこなのかが、周知されていない。

イ 地域防災拠点と避難所の区別

- ・ 地域防災拠点が地震の時にしか開設されないことを初めて知った。
- ・ 避難場所を明確に周知することが必要。小田小学校は地震が起きた場合の避難場所、台風等の土砂災害時の避難場所ではないことを知らなかった。
- ・ 実際に今回の台風で小田小学校に避難しようとして行ってしまう、入れなかったという人がいた。
- ・ 「災害時は小田小へ避難」という思い込みで避難する人がいた。

- ・ 地域防災拠点の小田小学校だが、周囲に家が多く、いざという時は入れないのではないか。

ウ その他

- ・ 台風 15 号の前の、9 月 3 日の大雨でケアプラザや駅周辺が浸水するなどした。富岡第一地区は、風より浸水被害が心配。
- ・ 台風 19 号では、その前の被害の経験が準備に生かされたのではないか。
- ・ 今回の台風による被害はみんな想定外だった。自分のところは大丈夫だと油断していた。
- ・ 台風 19 号では事前の報道がすごかったが、意外と周囲の被害は少なかった。
- ・ 台風被害を話題にして、普段話さない人と話すことが増えた。
- ・ 温暖化の影響で今回のような状況は増える、対応を急がなければならない。
- ・ 山坂があり、低地は冠水する。川がないからといって安全ではない。
- ・ 坂道が多く、逃げ方が難しい。
- ・ 非常事態を知らせる「音」が聞こえない。
- ・ テレビは報道する範囲が広いので情報源とならない。
- ・ 雨が入り住めなくなったので避難場所へ連絡するも対応できないと言われた。
- ・ そもそも災害が少ないためイメージが湧かず、逃げる様子がない。

8 情報提供

(1) 小田小学校

台風による被害の状況、学校の今後の行事予定など

(2) 小田中学校

台風による被害の状況、学校の今後の行事予定など